

3章 総合問題3

問題

【1】

解答

- (1) 人間の幼児とそれ以外の人間の幼児。 (2) a (3) d
(4) 生後数分間以内に自分の足で立ち、数時間以内にその群れと共に走り回る能力。
(5) which fits man for survival as a (6) c (7) 言語を習得する能力。
(8) b (9) 「全訳」の下線部 (A) 参照。 (10) d (11) c
(12) b, d, g, h, k

解説

- (1) them は two things ではなく、ℓ. 1 の a human infant, および、ℓ. 2 の any other infant を指すのは文脈からわかること。
- (2) = Whether it be mother, …
命令の仮定法現在は、従属節に格下げされて、‘譲歩’を示すこともある。本問がその例。
- (3) ○ in contrast with ~ 「～と対照的な」
○ marked *adj.* 「著しい；きわだった」
- (4) the capacity of ~ to … (～の持つ…する能力) から、直後の to get to their feet within minutes of birth and to run with the herd within a few hours に注目する。ただし、the capacity of many newborn animals と to get ~ は、同格関係にあるので「～するための能力」という日本語は不可。「～するという能力」、「～する能力」とする。
- (5) the very long learning period を先行詞とする関係詞節を作る。
○ fit A for B 「A を B に適応させる；A を B に耐えられるようにする」
○ species 「種」(単複同形)
- (6) 強調構文の that. *It is during ~ that it reveals …* で、強調される部分は during this very long period … dependent on others。
a 「問題は彼が病気で寝ているということだ。」
the trouble の主格補語節を導く接続詞。
b 「すべてがうまくいくよう期待されている。」
形式主語の it を受ける名詞節を導く接続詞。
c 「私が生まれ故郷を訪れたのは昨年だった。」
○ it is ~ that … 「…なのは～である」(強調構文)
d 「君が来られなかったのを残念に思う。」
- (7) the second feature と ℓ. 16 a capacity to learn language は同格関係。

- (8) (the second feature) which it shares with all other undamaged human infants 「人間の幼児が、障がいを受けていない他のあらゆる人間の幼児と共有する(第2の特徴)」
- it = the human infant
男女の区別がつかないので、it で受けている。
 - share A with B 「A を B と共有する」
 - a 「裕福な家庭の子供に限定された」
○ confine A to B 「A を B に限定〔制限〕する」
 - b 「すべての健康で、正常な子供に共通している」
 - c 「非常に知的な子供に特有な」
○ peculiar to ~ 「~に特有の」
○ exceedingly 「非常に」 = extremely
 - d 「正常な子供の間ではめったに見られない」
- (9) ○ biologist 「生物学者」
- suggest 「<特に学術上の問題について><理論・説明などを>~ということを提唱する」
この意味の場合、that 節内は直説法になる。「~を示唆する」は誤訳。「~を提案する」は不適切。
 - specific to ~ 「~に特有の」
 - that is to say 「すなわち；換言すれば」
 - genetically 「遺伝的に；遺伝上」 < genetic *adj.* 「遺伝的な；遺伝による」
 - in such a way that ~ 「~のような方法で」 → 「~のように」
 - program ~ 「~ (= 人・動物) を (<遺伝的・社会的に>…するよう) あらかじめ規定する」
Ex. Children seem to *be programmed* to learn language.
(子供は言葉が覚えられるようプログラムされている。)
- (10) move on all fours 「四つ足で歩く」と対立する語を選ぶ。
- upright 「直立した」
- (11) *ℓ.* 19 の (just) as と相関している。
- as ~, so … ① 「~であると同様に…である」, ② 「~であると同時に…である」
- (12)
- a 「人間の幼児は生まれる前、あるいは生まれる時に障がいを持ちがちであるので、まったく無力である。」
 - b 「人間の幼児は成長し、人の世話から独立するのに長時間を要する。」
 - c 「一般的に幼い動物は、自立できるようになるまで長時間を要する。」
 - d 「幼い動物は時に無力であるが、概して人間の幼児よりかなり早く成長し、自立できるようになる。」
 - e 「幼児期の無力期間は、いかに生存するかを学ぶには、時としてあまりにも長すぎる。」
 - f 「人間の学習期間は、幼児期の長い無力期間を考えればむしろ短い。」
 - g 「幼児期の無力期間は、生存することを長期間にわたり学ぶために必然的に長くなる。」

- h 「世界中を通して、健康で正常であれば、環境にかかわらず幼児は誰でも言語を習得する能力がある。」
- i 「人間の幼児が言語習得の能力を示すのは、成長して他の人の世話から自立した後である。」
- j 「人間の幼児が完全に他の人に依存している間、言語を習得する能力を見せるのはむしろ例外的である。」
- k 「生物学者によると、人間の幼児は言語を習得する能力を生まれながらに持っている。」
- l 「生物学者によると、人間の幼児が他人に依存するのが長ければ長いほど、言語習得が活発でなくなる。」

全訳

人間の幼児は、世界のどの地域のいかなる社会に生まれても、出産前か出産中にまったく障がいを受けていない限り、他の幼児と2つのことを共通に授かっている。まず第1に、そして極めて明らかなことながら、生まれたばかりの子供は完全に無力だということである。声を出すことによって自分たちのどうしようもなさ¹に注意を引きつけることができるという力強い能力を別にすれば、自らの生存を確実なものにするために新生児のできることは何一つない。それが母親であれ、祖母であれ、姉であれ、乳母であれ、何らかの人間の集団であれ、他の人間の保護がなければ、生きていく可能性は極めて少ない。人間の子供のこの無力は、多くの生まれてすぐの動物の、生後数分間以内に自分の足で立ち、数時間以内にその群れと走り回るといふ能力と著しい対照を成す。動物の子供も、危険にさらされることがある(それは時には生後数週間、さらには数カ月にもわたる)のは確かだが、人間の子供と比較して、著しい速さで自立能力を発達させる。この長い自分で用が足せない期間は、人間が種として生き残っていくことに耐えられるようにする極めて長い学習期間に対して人類が支払わねばならない代償であるように思われる。

人間の幼児が障がいを受けていない他のあらゆる人間の幼児と共有する第2の特徴、すなわち、言語を習得する能力を現すのが、彼らが完全に他人に依存しているこの極めて長い期間においてなのである。(A) こういう理由で、生物学者は今日、言語は人間という種に特有のものであると提唱している。言い換えれば、人間の幼児は生まれながらにして言語を習得できるようにプログラムされていると、彼らは考えているのだ。この説によれば、人間が四足歩行ではなく直立歩行するように生まれついているように、正常な人間としての正常な発達の一部として、言語を習得し使用するよう²に生まれついているということになる。

注

- ℓ. 1 ◇ it = a human infant
◇ have A in common with B 「A を B と共通に持つ」
- ℓ. 2 ◇ provided (that) ~ 「もし~ならば; ~という条件で」 = providing
◇ neither of ~ 「~ (2者) のうちどちらも…ない」
単数扱い (has で受ける) を原則とするが、of の後に複数名詞がくる場合は、複数扱いになることもある。3者以上の場合は none of ~ を用いる。
- ℓ. 4 ◇ helpless 「無力の」

- ◇ apart from ~ 「～を別にすれば」 = except for ~
- ◇ draw attention to ~ 「～に注意を引きつける」
- ℓ. 5 ◇ using sound 「声を出すこと」
- ◇ the new born child 「新生児」
- ◇ ensure ~ 「～を確実にする〔保証する〕」
- ℓ. 6 ◇ care from ~ 「～からの世話〔介護〕」
- ℓ. 8 ◇ get to *one's* feet 「立ち上がる」 = get [have ; keep] *one's* feet on the ground = stand up
- ℓ. 9 ◇ herd 「群れ」 *cf.* a *herd* of ~ (多数の～)
- ℓ. 10 ◇ at risk 「危険に瀕している」
- ◇ compared with ~ 「～と比較すると」
- ℓ. 11 ◇ It *would* seem that ~ 「～であるようだ」
この *would* は *seem ; say ; think ; like ; prefer* などの動詞の前に置いて口調を和らげる働きをする。
- ℓ. 12 ◇ pay the price for ~ 「～の代償を支払う」
- ℓ. 13 ◇ species 「分類上の種」
- ℓ. 14 ◇ learning period 「学習期間」
- ℓ. 19 ◇ imply ~ 「～を意味する」
◇ A rather than B ① 「BでなくてA」, ② 「BよりむしろA」
- ℓ. 20 ◇ on all fours 「四つんばいで」 = crawling on hands and knees
- ℓ. 21 ◇ well-formed 「正常な」

【2】

解答

- (1) a T b F c F d F e F f F g F h F
i F j F k F l T m F n F o F
- (2) ① 20世紀後半の読み書きできるアメリカ人が共有している一連の知識を認識し定義すること。
- ② 「全訳」の下線部**①**, **②**, **③**, **④**参照。
- ③ ○専門的なものでも一般的なものでもなく、その中間にあること。
○アメリカの文化の中で広く知られていること。
○永続的な意義を持っていること。
- ④ If a major daily newspaper refers to an event, person, or thing without defining it, we can assume that the majority of the readers of that magazine will know what that item is. (主要な日刊紙が、定義せずにある出来事、人物、事柄について言及しているとしたら、その読者の大部分はその項目が何であるか知っていると仮定できる。)

- (3) ① Dictionary of Cultural Literacy
 ② [解答例] Adam and Eve [Achilles ; Do unto others as you would have them do unto you ; all thumbs ; Bible ; As You Like it ; adverb ; Bach ; Alexander the Great ; Armada ; Boston Tea Party ; Apollo 11 ; democracy ; Capitol Hill ; Africa ; Alaska ; Freud ; affluent society ; acid ; acid rain ; algae ; abortion ; computer]
- (4) This is one of the things that contribute to the stability of cultural literacy in America.

解説

- (1)
- a 「2人の人間が意思を伝え合ったり協調し合ったりすることができるのは、多くの共通の知識を持っているからである。」
 - b 「たいていのアメリカ人はこの本にある項目をよく知っていて、それらすべてについて容易に何であるかがわかり、意味を明確にすることができる。」
 - c 「cultural literacy とは、アメリカ人によるアメリカ文学についての研究のことである。」
 - d 「共有された知識は重要ではない。というのは、それは我々が皆すでに知っていることだからだ。」
 - e 「日刊新聞やニュース報道によって、我々はジョークをわかり合うことができる。」
 - f 「我々の公の場での談話について研究した人はこれまでいない。」
 - g 「色や動物の名前は、我々が皆知っている基本的で一般的な知識なので、この辞書に含まれるべきである。」
 - h 「専門知識は非常に重要なので、この種の辞書に入れておくべきだ。」
 ○ too ~ not to ... 「…しないには～すぎる→とても～なので…する」
 - i 「我々は小規模な地方新聞や地域誌を探して、人々が自分たちが生活している世界について本当に知っていることを理解した。」
 - j 「cultural literacy は現在の出来事に関する知識ではないので、最近のニュースや発見はすべてこの辞書から排除されている。」
 - k 「我々の寿命は短く、我々の記憶のスパンはさらに短いので、永続的な意義を決めることは難しい。」
 - l 「この本は、大多数の人々が今から15年経っても容易に認識できる出来事を含んでいる。」
 - m 「15年とは、不朽なものが価値のないものになるのに要する期間である。」
 - n 「スポーツや娯楽における人物や出来事の多くはよく知られているので、この本に含まれるべきである。」
 - o 「この本はすべての事柄を含むことができなかつたために、未完成である。」
- (2)
- ① that task は、直前の文より、「this body of knowledge を identify し define すること」であるとわかる。そして、この this body of knowledge は、ℓ. 7～8より「literate Americans of the late twentieth century により share されている a body of information」のことである。以上をまとめればよい。
 - ② ② ○ identify ～ 「～を認識する」

- define ~ 「~を定義する」
- item 「項目」
- the information that we call cultural literacy
直前の the names, phrases, events, and other items that are familiar to most literate Americans を言い換えたもの。
- ③ ○ it is that shifting body of information that …
it は cultural literacy を指し、最初の that は shifting body of information が関係代名詞（2番目の that）の先行詞であることを指している。和訳の際には訳出しない。
- that our culture has found useful
has found の目的語が関係代名詞 that。
- find + O + C 「O が C だとわかる」
- C の構造は $\left\{ \begin{array}{l} \text{useful} \\ \text{and} \\ \text{therefore} \\ \text{worth preserving} \end{array} \right.$
- worth …ing 「…される価値がある」
- ④ ○ eliminate ~ 「~を除く〔削除する〕」
- altogether = completely ; totally
- nearly so = nearly altogether
- ⑤ ○ invite ~ 「~を丁寧に頼む〔求める〕」

Ex. The boy's father *invited* my opinion on the problem.

（その子供の父親は、その問題について私の意見を求めた。）

- participation 「参加」 < participate

- ③ we had to establish a number of rules for deciding what to include（何を辞書に含めるかを定めるために、いくつかのルールを確立する必要があった）と書かれ、その後、First（第1に）とある。そして、次の段落は Our second test was … という書き出しで、さらに次の段落は Third, … と続いている。この3つの段落で述べられている「ルール」の内容を簡潔にまとめて書けばよい。
 - ④ 代名詞 this は通常はその直前に述べられている内容を指す。ここでも、直前の文、If a major daily newspaper refers to … will know what that item is.（主要な日刊新聞がある出来事、人物、事柄について、その意味を定義しないで言及しているとしたら、読者の大部分はそれが何のことか知っていると考えられる）ということ指している。
- (3)
- ① この本のタイトル名は、本文中に何度となく cultural literacy が出てくることから、予想可能。

capitalization のルールとして、「書名は、最初の文字は必ず大文字。それ以外に関しては、機能語以外は大文字で始めて書く」というものがある。したがって、この本のタイトルは *The Dictionary of Cultural Literacy* と表記されることになる。本問の正

解は a (Dictionary of Cultural Literacy) である。また、空所⑧の前の、不定冠詞 a を考慮して、固有の書名ではなくて、「ある、cultural literacy に関する辞書」と考えて、“a (dictionary of cultural literacy)” としてもよいだろうというのが米国人インフォーマントのコメント。

- ② この辞書に載せるべきものの条件 ((2) ③の「3つのルール」——専門的すぎず、また一般的すぎないこと。大多数の人々に広く知られていること。永続的な意義を持っていること) に当てはまるものであれば何でもよいのだから容易なはずである。ここでは、考えられ得る具体的なジャンルに対する例を挙げておこう。

ジャンル	例
The Bible	Adam and Eve
Mythology and Folklore	Achilles (アキレス)
Proverbs	Do unto others as you would have them do unto you. (自分が他人にしてもらいたいように他の人にしなさい。)
Idioms	all thumbs (不器用な)
World Literature, Philosophy, and Religion	Bible
Literature in English	As You Like It
Convention of Written English	Adverb (副詞)
Fine Arts	Bach (バッハ)
World History to 1550	Alexander the Great (アレクサンドロス大王)
World History since 1550	Armada (無敵艦隊)
American History to 1865	Boston Tea Party
American History since 1865	Apollo 11
World Politics	democracy
American Politics	Capitol Hill (連邦議会)
World Geography	Africa
American Geography	Alaska
Anthropology, Psychology, and Sociology	Freud (フロイト)
Business and Economics	affluent society (豊かなる社会)
Physical Sciences and Mathematics	acid
Earth Sciences	acid rain (酸性雨)
Life Sciences	algae (藻類)
Medicine and Health	abortion (妊娠中絶)
Technology	computer

(4) ○ that の先行詞は the things であり one ではない。

○これは内容から考えて、

This is one of the things

↑ that contribute to the stability of cultural literacy in America.

と考えるのが妥当だからである。ここでは contributes は contribute にしなくてはならない。

全訳

正確に言って、まったく同じことを知っている人間など2人としていないのであるが、その2人が多くの知識を共有していることはよくある。この共通の知識、すなわち共通の記憶によって、人々は意思の疎通を図り、共同作業をし、共に生活をするのが、かなりの程度まで、可能となる。この知識は共同社会の基礎を成し、そして十分な数の人々に共有されれば、ある民族文化のはっきりとした特徴となる。この共通の知識の形態と内容は、それぞれの民族文化を独自のものにしていく要素の1つを構成している。

このような一連の知識は、20世紀後半の読み書きのできるアメリカ人に共有されており、このような一連の知識を認識し、定義することができるというのが我々の考えるところである。この辞書は、その仕事に向けての初めての試みである。⑥この辞書は、読み書きのできるアメリカ人の大半がよく知っている名前、表現、出来事、その他の項目、すなわち、cultural literacy（文化の基礎知識）と我々が呼んでいる知識が、何であるかを認識し、定義している。すべての見出し語を知っている人は我々の中にはほとんどいないであろうが、我々のほとんどがその大部分を、たとえ1つ1つを正確に定義することはできないにしても、よく知っていることであろう。

cultural literacy は、専門知識と違って、すべての人に共有されることを意図されている。⑦それは、我々の文化にとって役立ち、それゆえに保存する価値があるものと思われてきた絶えず変化する一連の知識である。我々が読んだり聞いたりすることのほんの一部しか、cultural literacy を持つ人々の記憶の棚に確固たる座を得ることができないのであるが、この知識が重要であることに疑問の余地はない。この共有された知識こそ、我々の公の場での談話の基礎を成している。そのおかげで、毎日の新聞やニュースの報道が理解でき、仲間や指導者の言うことがわかり、ジョークを言い合うことすらできるのである。cultural literacy は、我々が言ったり読んだりすることの背景を成しているものであり、それがアメリカ人をアメリカ人たらしめているものの一部なのである。

公の場での談話で当然とされている知識が何であるかを認識し、定義しようとしたのは本書が最初であるので、どういうものを含めるかを定めるいくつかのルールを確立しなくてはならなかった。第1に我々が提唱したのは、cultural literacy のレベルを超えているか、あるいはそこまで到達していないかのいずれかである事項が多いということだった。ある知識は非常に専門的で、専門家にしか知られていないため、共通の知識のレベルを超えている。それと同時に、色や動物の名前のような知識は、この種の辞書に入れるにはあまりに基本的でよく知られすぎている。cultural literacy は、当然のことながら、専門的な知識と一般的な知識の間に入る。

我々の2番目の基準は、ある項目が我々の文化の中でどの程度広く知られているのかを決

めるということであった。大多数の読み書きのできるアメリカ人によって知られている項目のみが、この辞書に載るべきである。そこで、項目を選ぶ際には、広範囲にわたる全国向けの定期刊行物を利用した。もし、主要な日刊紙が、定義せずにある出来事、人物、事柄について、言及しているとしたら、その読者の大部分はその項目が何であるか知っているであろうと仮定することができる。もしこれが正しいとすれば、その出来事、人物、事柄はおそらく我々の共通の知識の一部を成し、それゆえ、cultural literacy の一部を成していることになる。

第3に我々が提唱したのは、cultural literacy は、現在生じている出来事を我々が理解する助けとなることはあっても、今現在の出来事に関する知識ではないということであった。cultural literacy の一部となるには、ある項目が永続的な意義を持たなければならない。その項目は我々共通の記憶の中に存在しているか、あるいは、そうなる可能性があるかのいずれかである。これが、アメリカにおける cultural literacy を固定させる一助となることの1つである。この辞書の項目の中には、我が国が始まって以来、国民の意識の中で変化しないているものもある。

永続的な意義を判断するのは非常に困難な場合もある。現代の情報化時代では、我々の共通の記憶の中にある多くの事柄は寿命が非常に短い。今日不朽であると思われることが、明日には価値がないものになるということがよくある。この辞書を創るにあたり、我々は恣意的に15年という記憶のスパンを選んだ。もしある人物や出来事が15年以上にわたって広く人々にそれと認識されてきたり、現在から15年以上経っても多数の人々によってそれと認識される可能性があると思われたりすれば、その人物や出来事はこの辞書に入れるかどうか考慮する価値があるということにした。

①永続的な意義というこの基準により、ある分野が完全に、あるいはほぼ完全に抜け落ちてしまう結果になった。例えば、スポーツや娯楽の分野における人物や出来事の大部分に関する我々の共通の記憶は、あまりにも短命で、我々が文化的に受け継いだものの中に永久的な座を占めることはない。しかし、顕著な例外もあり、それらはこの辞書に入っている。

cultural literacy の辞書を創ろうとするこの試みは、いまだ未完成の課題である。これをよりよいものにし、拡げていくために、読者の皆様が我々の協力者になっていただけるよう希望する。我々の文化は、新しいものが加わり、あるものが忘れられ、また、新しい関係が生まれ、壊れるにつれて、絶えず変化している。cultural literacy の範囲を確定することは現在も続いている課題で、本書はほんの第一歩にすぎない。②皆様のご参加をお願いする次第である。

注

l. 1 ◇ no two humans … 「…する2人の人間はいない」

cf. *No two people are exactly alike.* (まったく同じ2人の人はいない。)

No one man could do it. (誰も1人でそれはできない。)

◇ have ~ in common 「~を共通に持っている」

l. 2 ◇ to a large extent 「かなりの程度まで」

cf. *to some [a certain] extent* (ある程度まで)

◇ collective 「集合的な；共有の」

- ℓ. 4 ◇ basis 「基礎」
 ◇ distinguishing 「はっきりとした」
- ℓ. 5 ◇ national 「国民の；民族の」
- ℓ. 6 ◇ constitute ～ 「～を構成する」
- ℓ. 7 ◇ it は 2 つの that 節を受ける形式主語。
 ◇ a body of information 「知識の集まり；一連の知識」
 ◇ literate *adj.* 「読み書きできる」
cf. literary *adj.* (文学の；文語の) / literal *adj.* (文字通りの)
- ℓ. 9 ◇ a first … first は the を冠するのが普通であるが「いくつかあるものの1つ」の意味で、a を取ることもある。とりわけ、学者は自分の考えや成したことが唯一のものであるという断定を避ける意図でよく用いられる。
- ℓ. 11 ◇ cultural literacy 「文化の基礎知識；普通の読み書きができる人ならば、一般に、当然知っているものと前提される背景知識」
 ◇ entry 「見出し語；項目」
- ℓ. 13 ◇ be meant to … 「…することを意図されている」
- ℓ. 15 ◇ a small fraction of ～ 「～のわずか一部」
 ○ fraction 「断片」
 ◇ gain a secure place on the memory shelves 「記憶の棚に確固たる座を得る」
 「記憶の中に常に存在している」という意味の比喩的な表現。
- ℓ. 16 ◇ the culturally literate 「文化の基礎知識 (cultural literacy) を持つ人々」
 ‘the + 形容詞’ で ‘…な人々」という意味を表す。
 ◇ beyond question 「疑問の余地がない」
cf. beyond endurance (我慢できない) / beyond description (筆舌しがたい)
- ℓ. 17 ◇ public discourse 「公の場での談話」
 ○ discourse 「談話；言語による思想の伝達」
- ℓ. 18 ◇ comprehend ～ 「～を理解する」 = understand ～
 ◇ peer 「同僚；仲間」
- ℓ. 19 ◇ context 「背景」
- ℓ. 22 ◇ assume ～ 「(明確な証拠はなくとも) ～を当然と思う」 = believe something to be true without actually having proof that it is
- ℓ. 23 ◇ propose ～ 「(特に学術上の問題について) ～ (= 理論・説明など) を提唱する；～であると提唱する」
cf. propose a new hypothesis that natural conditions mold the development of animals
 (自然条件が動物の成長に影響を与えるという新しい仮説を提唱する)
- ℓ. 24 ◇ specialized 「専門的な」
- ℓ. 25 ◇ at the same time 「同時に；しかし一方で」
- ℓ. 27 ◇ by definition 「その性質上；明らかに」
 by definition は by its very nature の意味の熟語であるが、ここでは「定義上」という直訳の意味も掛けている。

◇ fall between A and B 「A と B の間に当たる〔入る〕」

cf. Fourth of July *falls on* a Saturday this year.

(7月4日 (=アメリカ独立記念日) は今年土曜日に当たる。)

◇ the specialized and the generalized 「専門的なものと一般的なもの〔→専門的な知識と一般的な知識〕」

‘the + 形容詞’ で「…なもの」の意味を表す。

ℓ. 28 ◇ test 「基準」

ℓ. 29 ◇ those items that ~ :

この those は items が関係代名詞 that の先行詞であることを指す。日本語に訳出しない。

ℓ. 30 ◇ draw upon ~ 「~を利用する；~に頼る」

◇ a wide range of ~ 「広範囲にわたる~」

ℓ. 31 ◇ national 「全国向けの」

ℓ. 36 ◇ those events as they occur :

as は接続詞で、直前の名詞 events を限定する用法。したがって、as they occur は形容詞節として機能している。そこで形容詞節の限定がくることを前もって示すために those が events の前に置かれている。those は訳出しない。

ℓ. 37 ◇ lasting significance 「永続的な意義」

ℓ. 38 ◇ the promise of …ing 「…する可能性」

ℓ. 39 ◇ the stability of cultural literacy 「cultural literacy を確定すること」

ℓ. 42 ◇ lifespan 「寿命」

ℓ. 43 ◇ monumental 「不朽の」 ⇔ trivial 「価値がない；些細な」

◇ for the sake of ~ 「~のために」

ℓ. 44 ◇ arbitrarily 「恣意的に」 < arbitrary

◇ a memory span 「記憶の持続期間」

ℓ. 46 ◇ deserve ~ 「~に値する」

ℓ. 50 ◇ our cultural inheritance 「我々が継承する文化」

ℓ. 51 ◇ outstanding 「目立った；顕著な」

ℓ. 55 ◇ first … ℓ. 9 の first と同じ。

【3】

解答・解説

(1) as if she were が省略可能。

「メアリーは驚いたように見えたが、再び笑った。」

(2) people who were が省略可能。

「関係者すべてに対し、深い感謝の気持ちを表します。」

○ those concerned = the parties concerned 「関係者」

(3) there were, that が省略可能。

「当時、級友の中で留学を考えていた人はほとんどいなかった。」

- (4) that is, birds that are が省略可能。
「手中の1羽は藪の中の2羽の価値がある。(確実な利益の方が大切。)」
- (5) would happen が省略可能。
「もし世界の人口が100人に縮まったらどうなるでしょう。」
- (6) that he will, come over this evening が省略可能。
「『今日の夕方、小野さんが来るかもしれません。』『来てほしくないなあ。することがあるんだ。』」
- ※ hope や be afraid などの目的語として、肯定の that 節の代わりには so を、否定の that 節の代わりには not を用いる言い方がある。
- Ex. “You’ve heard of it, right?” “Yeah, I think *so* (= that I’ve heard of it).”
“Is he sick in bed?” “No, I hope *not* (= that he is not sick in bed).”

【4】

解答

- (1) c (2) b (3) b (4) a (5) d
(6) d (7) d (8) d (9) c (10) a

解説

- (1) 「ビルは、あなたが彼と働くことを断ったのがっかりした。」
was disappointed at your refusal to work with him → c
○ one’s refusal to … < refuse to … 「…しようとしなない」
○ be disappointed at ~ 「～に失望する」
- (2) 「メアリーが間違っていることに疑いはないが、完璧な人はいないのだから、あなたは彼女をあまり叱らないでやってほしい。」
would rather you didn’t pick on her → b
○ would rather (that) 「…してもらいたいものだ」 [仮定法]
cf. would rather [sooner] A than B = would as soon A as B
(BするよりもむしろAしたい) (A, Bは動詞の原形)
○ pick on ~ 「～を叱る」
○ no doubt 「疑いなく」
- (3) 「日本の若者の中には、箸で食べ物をつまむのは容易でないと感じている者もいる。」
chopsticks are easy to pick food with → b
to pick food with の with の目的語は主語。
○ pick A with B 「AをBでつまむ」
○ youngster 「若者」 ⇔ oldster
- (4) 「彼ら2人とも極めて優秀ではあるが、2人とも思いやりのある人間ではない。」
() の前に but があるので、前半の Both of them are very brilliant (彼ら2人とも極めて優秀である) と逆の内容が続くはずと考える。
() の後ろの of them is warm-hearted 「彼らのうちの～は思いやりがある」は肯定的意味を持つので、() には否定語が入るはずと考える。

以上より、**a** neither か **c** none のいずれかに絞られるが、neither は、構成要素が2つで、その2つとも～でない、none は、構成要素が3つ以上で、そのすべてが～でない場合に用いる語である。したがって、**a** neither が正解となる。

※ neither は伝統文法または正式用法では単数、略式では複数扱い。

cf. Neither of the children

were	hurt.
was	

 「子供は2人ともけがをしなかった。」

‘名詞 + ed’ の ed は、名詞に付く活用語尾と言われ、「～を持った；～の特徴のある」の意味を表す。

cf. a narrow-minded person (考え方の狭い人)

- (5) 「私はもうこれ以上彼のそのような不愉快な態度に我慢できない。」

that nasty attitude of his → **d**

○ of + 所有代名詞 [独立所有格] [二重所有格]

○ stand ～ 「～を我慢する」 [通例, 否定文・疑問文・if 節で]

a, b his と that は続けて用いることはできない。

- (6) 「哲学はあなたが想像しているほど難しい学科ではない。」

not so difficult a subject as you imagine it is → **d**

○ not so ～ as A 「A と同じほど～でない」

‘so + 形容詞 + 不定冠詞 + 名詞 + as’ の語順に注意。

○ subject 「学科」

- (7) 「2人の警官が強盗を逮捕した。彼らは彼がミラー夫人の家に忍び込むところを捕まえた。」

caught him sneaking into Mrs. Miller's → **d**

○ catch O C (= 現在分詞) 「O が C しているのを見つける」

※必ずしも捕まえるとは限らない。

○ sneak into ～ 「～の中にこっそり入る [忍び込む]」

○ Mrs. Miller's (house) [独立所有格]

- (8) 「トムがどんなことにもうろたえることをとりわけ変だとは思わない。」

think it odd that Tom should be upset about everything → **d**

○ think it C that 節 「…を C と考える」

it は形式目的語で that 節以下の内容を受ける。

○ should (「感情」を表す) 「～なんて」

It is odd that Tom should be upset about everything. が潜在。

○ be upset about ～ 「～に取り乱した [うろたえた]」

- (9) 「君の時間のすべてをテレビを見るのに使うのはあまりいい考えではない。」

○ spend A …ing 「A (= 時間) を…して費やす」 → **c**

- (10) 「私が明日の午後9時に私の大学の指導教官に電話するのを忘れないよう注意してくださいませんか。」

○ remind A to … [that 節] 「忘れないで A が…するよう気づかせる」 → **a**

【5】

解答

- (1) kill (2) ignorant (3) Why (4) introduced (5) accept
 (6) busy (7) method (8) subject (9) required (10) determined

解説

- (1) (a) 「航海の間, 乗客が船上で退屈しないように彼らはたくさんの余興を用意している。」
 (a) ○ not get bored < bore ~ 「~を退屈させる」
 ○ so that … 「…するために」 ‘目的’を表す。
 ○ entertainment 「余興」
 (b) ○ to kill time during the voyage : ‘目的’を表す副詞用法の不定詞
 ○ kill time 「時間をつぶす」
- (2) (a) 「彼がそのように振る舞う理由をあなたはよく知っている。」
 (b) ○ are not at all ignorant of ~ 「~を知らないということはまったくない」
 → 「~をよく知っている」
 ○ be ignorant of ~ 「~を知らない」
- (3) (a) 「あなたが座っている腰掛け椅子よりも座り心地のよい肘掛け椅子にお座り下さい。」
 (a) Please seat yourself
 ○ seat oneself 「座る」 cf. seat ~ (～を着席させる)
 (b) Why don't you seat yourself 「お座りなさいよ」
 ○ Why don't you …? 「…してはどうですか。」
- (4) (a) 「ヨーロッパ人はアメリカへ旅行する者から喫煙を覚えた。」
 (b) 「喫煙はアメリカからヨーロッパへ伝えられた。」
 (a) ○ learn to … 「…するのを習得する；…するようになる」
 (b) ○ be introduced to ~ 「~に初めて持ち込まれる」
 < introduce ~ 「~ (= 流行・風習など) を導入する」
- (5) (a) 「メアリーはテレビ番組の選択ではたいてい兄に従わねばならない。」
 (a) has to give in to her big brother
 ○ give in to ~ 「~に降参する」
 (b) accept her big brother's choice 「兄の選択を心から受け入れる」
 ○ accept ~ 「~を (積極的に, または快く) 受け入れる」
- (6) (a) 「昨夜あなたにそのことを言おうとしたが, 誰かがずっとあなたの電話を使っていた。」
 (b) your phone was always busy 「あなたの電話は常に話中だった」
 ≙ your phone was always engaged
- (7) (a) 「我々はその問題に対するまったく新しい解法を見出さなくてはならない。」
 (b) 「完全に新しい方式がその問題を解くには必要だ。」
 (a) ○ a totally new solution
 ○ solution 「解答」
 (b) a completely new method
- (8) (a) 「そんなことを人前で言うと, 人に笑われるよ。」

- (b) 「そのようなことを言えば、みんなに笑われてしまう。」
 (b) will be subject to public laughter 「みんなに笑われてしまう」
 ○ be subject to ~ 「~を受けやすい；~されることがある」
- (9) (a) 「これは工学部の学生のための選択コースである。」
 (b) 「工学部の学生はこのコースをとることを要求されない。」
 (a) ○ voluntary 「自ら進んでとる」 cf. a required course (必修コース)
 (b) are not required to take this course 「このコースをとることを要求されない」
 ○ require A to ... 「A に...するように要求する」
- (10) (a) 「私はタバコをやめる決心をした。」
 (a) have made up my mind to stop smoking
 ○ make up *one's* mind to ... 「...する決心をする」
 (b) am determined to give up smoking
 ○ be determined to ... 「...することを堅く決意している」
 < determine A to ... 「A に...することを決心させる」

【6】

解答

- (1) kept (2) with, below (3) much (4) ill

解説

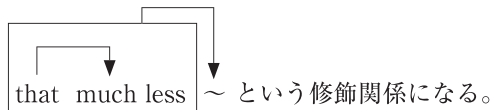
- (1) (ア) 「彼には秘密があったが、死ぬまで人に知られることはなかった。」
 (イ) keep A to *oneself* 「A (=物事) を人に話さないでおく；胸に秘めておく；秘しておく」 (= not express (comments, views, etc.)) という慣用表現を問う問題。
- (2) (ア) 「彼が最高のアマチュア選手の1人であるというのは確かだが、もちろん、彼の技術はプロの技術によってはるかに超えられている。→ プロの技術の方がはるかに上だ。」
 ○ surpass = be greater or better than
 that = the skill. that は「the +単数名詞」の代用として用いる。
 (イ) ○ rank with ~ 「~と肩を並べる」 = have a place with ~
Ex. No one can *rank with* her in singing. (歌で彼女に及ぶものはいない。)
 ○ be below ~ 「~以下で；~より劣って」 = be lower than, in place, position, amount, value, price, worth or quality
Ex. He *is below* her in talent. (彼は才能では彼女に及ばない。)
- (3) (ア) 「物質以外の物は何も興味を抱かなくなるにつれて、その分我々は人間らしくなくなっており、その意味では人間性を失っているのだ。」
 ○ other than ~ = except ~
 ○ correspondingly 「対応して；同時に」
Ex. When wages are low, benefits are *correspondingly* lower.
 (賃金が低いとそれに応じて給付金も低くなる。)
 ○ humanity :
 ① human beings as a whole 「人類」

- ② the condition of being human 「人間性」
- ③ sympathy and kindness towards others 「思いやり」
- ④ (humanities) studies concerned with human culture, such as literature or history 「人文科学」

(イ) that () less like ~は correspondingly less like ~の部分に当たる。
この that は「それほど (= to such a degree ; so)」の意の副詞。

Ex. He wasn't *that* far away. (彼はそれほど遠くへは行っていなかった。)

しかし、副詞 that は比較級を修飾することはできないため、that と less の間に much が入る。要するに、



- (4) (ア) 「科学者と詩人が、別れず手に手を取って歩む時代があった。前者が知覚した世界において、後者は快くくつろいでいたのだった。」
- hand in hand = holding hands, especially to show affection for each other
 - universe = the world ; all the objects under consideration
 - perceive = apprehend
 - find oneself + C 「気がつく」と C している」
 - be comfortably at home 「くつろいでいる」 (at home の程度が comfortably と考える。)
 - at home = at one's ease ; as though in one's own house ; comfortable and at ease
- (イ) the other found nothing



「自分を…するものは、何も見つけなかった」が直訳。したがって () には否定的な意の副詞が入ることがわかる。at ease を修飾する否定を表す副詞は ill である。したがって (ill) at ease が正解。

- at one's ease = free from anxiety ; in the state of freedom from anxiety, embarrassment or awkwardness
 - ill at ease = anxious ; uncomfortable ; embarrassed ; uneasy
- ill をここで整理しておこう。

- ① badly ; wrongly ; imperfectly cf. ill used (酷使された ; 悪用された ; 虐待された)
- ② scarcely
cf. I can ill afford to purchase a condominium. (私にはマンションを買う金がない。)
- ③ unfavorably
cf. Don't speak ill of the dead. (死者の悪口を言ってはならぬ。)

Don't speak ill of someone behind his back. (人の陰口をたたいてはならぬ。)

speak ill of は古い表現で上の例のような格言的な言い回しでのみ用いる。日常的には、be rude about, say something bad about, criticize 等を用いる。

【7】

A.

解答

- (1) Someone [Somebody] was to meet us at the airport.
- (2) The other one is more modern in design.
- (3) I don't see what made him do such a thing.
- (4) He never puts on weight [He does not gain weight], no matter what he eats.

解説

- (1) 「…することになっていた」をどう表すかがポイント。was が与えられているので、be supposed to … (…することになっている) を用いて、Someone *was supposed to* meet us at the airport. とすると9語で、語数オーバーになってしまう。そこで、was を使ったもう1つの言い方、「予定」を表す be to … (…することになっている) を用いて、Someone *was to* meet us at the airport. とする。
- (2) 「(2つのうち) もう1つの方」は、one に対して、the other (one) で表す。「デザインがモダンだ」は、design が modern の後に与えられているので、「デザインにおいてよりモダンだ」と考えて、be more modern *in* design となる。
- (3) 「…が私にはわからない」は、see という動詞が与えられているので、I don't see …となる。「彼がどうしてあんなことをしたのか」は、普通に考えれば、why he did such a thing となるところだが、what と動詞の原形 do が与えられていることから、「何が彼にあんなことをさせたのか」と考えて、*what* made him *do* such a thing とする。
- (4) 「太る」は、weight が与えられているので、「体重が増える」と考えて、gain [put on] weight とする。よって、「彼は…太らない」は He never gains [puts on] weight. または、He does not gain [put on] weight. となる。
「何を食べても」は、matter が与えられているので、「たとえ何を食べようとも」と考えて、no *matter* what he eats とすればよい (no matter what he *may* eat でもよいが、やや古い言い方)。したがって、10語という語数指定を考えると、He never puts on weight [He does not gain weight] , no matter what he eats. となる。

B.

解答

A : Won't you have something to eat, Osamu?

B : No, thank you. My stomach is a bit upset.

解説

「何か食べませんか。」は Won't [Will] you have something to eat? が決まった表現 (Won't you …? の方が Will you …? よりも親しみのこもった言い方となる)。

「いいえ、結構です。」は、相手の好意に対して断りの返事をする時の決まり文句である No, thank you. でよい (No と thank you を切らずに発音するという基本事項も確認しておこう)。

「胃の調子がおかしい」は I have an upset stomach, there is something wrong with my stomach でもよいが、「少し」の意味合いを出すには、my stomach を主語にして、my stomach is a little [bit] upset とするとよい。

「…おかしいものですから」の「から」は特に訳出する必要はない。

【8】

解答

An old Japanese saying goes, "Men must not enter the kitchen," but this saying is dying out. (1) As kids, Japanese men used to be told by their mothers not to come into the kitchen but to study; and when they had grown up, they would be told by their mothers or wives to stay out of the kitchen because they were men. (2) Today, however, the number of men who enjoy cooking on the weekends and their days off is increasing.

別解

- (1) In the old days, Japanese males were told as children by their mothers to study instead of entering the kitchen, and when they had grown up, their mothers or wives would tell them not to enter the kitchen because they were men.
- (2) Nowadays, however, more and more Japanese men enjoy cooking on the weekends and holidays.

解説

- (1) 「子供時代には…」と「大人になると…」の部分が対比的に述べられているので、2つの節〔文〕に分けて、「子供時代には」と「大人になると」を副詞句〔節〕で対比させればよい。それぞれの節中は「日本の男性」を主語にして「…と言われた」という受動態で表す。2つの節には共通する部分が多いので省略してもよい。

「かつての」日本文では「日本の男性」にかかる修飾語となっているが、「日本の男性はかつては…だった」ということ。現在との対比を示す used to … ((今はそうではないが) かつては…だった) を用いて表せばよい。あるいは「かつては」という副詞(句)にするなら in (the) old days ; before など。ただし「子供時代には」の副詞句〔節〕と重なるので置き方に工夫が必要。

「日本の男性」単純に Japanese men とすればよい。

「子供時代には」

<節> when they were kids [boys ; children ; young]

(when の後の‘主語 + be 動詞’は主節と同じであれば省略可能)

<句> as children [kids] ; in their childhood

「母親に…と言われた」受動態で were told by their mothers とすればよい。

「台所などへ入ってこないで勉強しなさい」‘not A but B’ (AではなくB) の形を用いて表すのが適切。「母親に…と言われた」の部分が tell 人 to …の形の受動態を用いるので、それに続くこの部分は不定詞を使って not to enter the kitchen but to study とすればよい。「入ってくる」は come into としてもよい。他に (to) study without [instead of] entering the kitchen なども考えられる。

「大人になると」「大人になる」は動詞では grow up と表すので, when they had grown up で「大人になると」となる。grown-up のように名詞として使って when (they were) grown-ups とすることもできる。「大人」は adult でもよい。

「母親や妻から…と言われたものだった」前の節と同じように受動態で表せばよい。
あるいは「母親や妻が彼らに…と言った」という能動態にすることも可能。「…した
ものだった」は would や used to で表す。

「男だから」 because they were men

- (2) 主語の設定の仕方で3通りの構文が考えられる。

方法1：「料理作りを楽しむ男性」を主語として (Japanese) men who …のようにし、
述部は「数の上で増えている」とする。

方法2：「…する男性の数」を主語として述部は「増えている」とする。

方法3：少し発想を変えて「ますます多くの男性」を主語に立てて「料理をするのを
楽しんでいる」と続ける。

「今日では」 today ; nowadays ; these days

「週末に」 on (the) weekends

「休日に」 on holidays や on their days off とする。前置詞 on は「週末に」の on と
重なるので省略しても差し支えない。

「料理作りを楽しむ」「楽しむ」は enjoy が適切。enjoy の目的語には動名詞がくるの
で、enjoy cooking とする。

「…する男性がますます増えている」は、以下の方法がある。

方法1：「…する男性」を主語とすれば (Japanese) men who enjoy cooking ~ are
increasing in number となる。

方法2：「…する男性の数」を主語に立てれば、the number of men who … is increasing
となる。この場合主語は「男性」ではなく「~の数」であるから動詞を単数
で受けることに注意。「増えている」は be increasing の代わりに be on the
increase としてもよい。

方法3：主語を more and more (Japanese) men として enjoy [are enjoying] cooking
~ と続ける。

【9】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第2版』の参照番号を示す。

A.

- (1) (A) devoted (B) to ◆385

○ devote A to B 「BにAを捧げる」

○ devote *oneself* to ~ [be devoted to ~] 「~に専念する」 ◆386

- (2) (A) adapted (B) to ◆389

○ adapt [accustom ; adjust ; accommodate] A to B 「BにAを順応させる」

cf. adapt *oneself* to ~ 「~に慣れる」 (← 自分を~に慣れさせる)

- (3) (A) have (B) to ◆394

○ have A to *oneself* 「Aを独占する」

- (4) (A) provide (B) with ◆395

- provide A with B 「A に B を与える」
- (5) (A) associate (B) with ◆ 405
 - associate A with B 「A を B に結び付けて考える」
- (6) (A) blame (B) for ◆ 407
 - blame A for B 「A を B のことで責める」
- (7) (A) excuse (B) for ◆ 411
 - excuse A for B 「B について A を許す」
- (8) (A) took (B) for ◆ 414
 - take A for B ① 「A を B と間違える」 = mistake A for B
 - ② 「A を B とみなす」
- (9) (A) prevented (B) from ◆ 416
 - prevent A from …ing 「A が…するのを妨げる」
 - = keep [stop ; hinder ; inhibit] A from …ing ◆ 417, ◆ 418
- (10) (A) prohibited (B) from ◆ 422
 - prohibit A from …ing 「A が…するのを禁止する」
- (11) (A) tell (B) from ◆ 423
 - tell A from B 「A と B を区別する」
- (12) (A) derived (B) from ◆ 426
 - be derived from A 「A に由来する」
- (13) (A) regarded (B) as ◆ 428
 - regard A as B 「A を B とみなす」 = look on [think of] A as B ◆ 429, ◆ 430
- (14) (A) look (B) as ◆ 429
 - (13) 解説参照。
- (15) (A) referred (B) to ◆ 431
 - refer to A as B 「A を B と言う [呼ぶ]」

B.

- (1) Keep [Bear], mind ◆ 434
 - keep [bear] A in mind 「A を記憶に留めておく」 = remember A
- (2) hold, tongue ◆ 435
 - hold *one's* tongue 「黙る」
- (3) have, idea ◆ 440
 - have no idea 「わからない」 = don't know
- (4) keep, hours ◆ 441
 - keep early [good] hours 「(毎日) 早寝をする ; (毎日) 早起きする」
 - ※ 「(毎日) 早寝早起きする」の意味で現在用いられるのはまれ。
- (5) lose ; temper ◆ 445
 - lose *one's* temper 「腹を立てる」